

式辞

新入生のみなさん、顔を見てきっちりと伝えられるのは初めてですね、入学おめでとう。すでに本校の生徒として、スタートしているわけですが、式というのは、一つの区切りとして意味を持ちます。例えば、成人式も、自分の誕生日の日に行うわけではありません。でも、20歳という節目を迎えた学年全体で式を行うことで、成人になった自覚をしっかりとってもらうために行っているのです。今回の入学式はまさにそういう意味で、みんなはすでに入学はしているけれども、こうしてあらためて式を行っています。学校が通常再開となった今日、自分は島本第一中学校の一年生になっているのだという自覚をもって、これからの中学校生活に希望をもってほしいと思います。

保護者のみなさま、お子さまの入学、心よりお祝い申し上げます。こうして祝福と歓迎の場を持つことができたことを、うれしく思っております。当面はコロナ対応を行いながら中学校生活が進んでいくこととなりますが、これから3年間、教職員一同、皆様とともに全力で彼らを育てていくこととお約束します。この状況では、健康面はもちろんのこと、学習など多くの不安もお持ちのことと思いますが、いつもより一層丁寧に、状況を確認しながら進んでまいりますので、ご安心ください。今後何かご心配のことがありましたら、担任を通じて相談いただければと思います。

さて、あらためて新入生のみなさん、4月からずっと、これからどうなるのかと不安でいっぱいだったと思います。登校日にみんなが書いたものを見ると、勉強が大丈夫だろうかとか友達ができるだろうかとか心配している人が多くみられました。でもみんな同じ状況の中で、過ごしていましたから、互いに気持ちをわかりあえて、より強いきずなでつながることができると思います。これまでどおりの生活が戻ってきたわけではありませんが、一斉授業になったことは、少しずつ前に進んでいる証拠です。人間は苦しいことやつらいことがあっても、必ず又明るいことがやってきます。勉強もそのほかこれからの学校生活をみんなで力を合わせて乗り切っていきましょう。

この間、コロナ関係のニュースを見ていると、いろいろな大人たちが報道されていたと思います。自分が感染しているのをわかっているのに出歩いて他の人にうつした人、仕事が無くなって生活に困っている人、感染の危険性があっても病院で治療にあたってくれている人、感染した人を差別する人。人間は危機に陥った時にその人の生き方があらわれます。みんなは、そういった大人たちを見て、自分はこういう人になりたい、また、なりたくない、とそんな気持ちをもったと思います。私は自分が感染したら、できるだけ人にうつしたくない。仕事が無くて困っている人々には支援がいくような社会をつくりたい。病院やあちこちで最善をつくして働いている人に感謝の気持ちをもっていたい。差別的な言動をする人々は許せない。そんな風に思っています。

自分はこれからどんな大人になりたいか、よく考えながら毎日の行動につなげていきましょう。

今年度一中の目標は、「こころとからだのベストパフォーマンス」です。これは決して強くて完璧なこころとからだをめざしているではありません。自分のこころとからだに注目して、自分という人間が生き生きと過ごせるように、自分を大切に過ごしてほしいということです。そして、同じように他の人も大切にできる人になってくれることを願っています。

毎年とは違ったスタートとなりましたが、みんなのこれからの中学生生活3年間は、思いもよらないわくわくするような出会いや出来事が数多く訪れることでしょう。小学校の素敵な思い出もたくさんあることと思いますが、今日からは未来に目を向けて、中学校生活を思いっきり充実したものにしてほしいです。

毎年思うのですが、こうして目の前にいつみんなは、今までのどんな小さなことがなかったとしても、同じようにはできあがりませんでした。ここにいる人々のみながそうです。誰か一人でも欠けていたら、同じ集団はできあがらなかったでしょう。つまり、それぞれの日常の小さな思いやできごとがこの奇跡の瞬間をつくり上げてくれたのです。そして、これからの未来もみんなの一つひとつの日常の積み重ねで変わっていきます。3年後の卒業式はどんなメンバーでどんな人々の集まりになるのか、そのとき一中はどんな素晴らしい学校になっているのか、島本も、世の中も、みんな次第で大きく変わっていきます。だからこそ、日常の小さなことであっても感謝して前向きに日々を過ごしていきましょう。これからの社会を作るのはみなさんです。

以上式辞といたします。

令和2年6月15日

島本町立第一中学校 校長 西田敦子